

# 地域によってイントネーションが変わりやすい単語のジャンル

高木暉晃 23B00752  
東京工業大学理学院

## 1. はじめに

今回の問はイントネーションが変わりやすい単語のジャンルとその理由について明らかにすることである。この調査をするにあたってそのような単語をアンケートを用いてピックアップした。

## 2. 方法

グーグルフォームのアンケートで、異なるジャンルの単語(5×4=20個)についてイントネーションがどこにあるかと、自由記述にて他にイントネーションが変わるものがあるかをSNS(X)にて調査した。

## 3. 結果

サンプル数が多い関東、東海、関西地方に着目し、集計した。地域差を数値化するために分化Pという指標を導入し、計算したところ体の部位、動物、食べ物、名字の順に大きかった。また、その単語自体の分化率(イントネーションのばらけ度合い)も計算し、同じ表1にまとめた。さらに自由記述の単語についてもジャンルを分類し、数をまとめた結果表2のようになった。

表1: 単語のジャンルごとの発音の分化(n=32)

ジャンル	分化率	分化P
食べ物	0.57	16
体の部位	0.78	21
動物	0.65	18
名字	0.62	10

表2: その他発音の違う単語のジャンルと数(n=34)

ジャンル	数
食べ物	6
道具	5
施設・店名	5
地名	5
その他	13

## 4. 考察

最も地域差があるのは分化Pが最も多い「体の部位」で、上位二つは生き物に関わる単語である。しかし「食べ物」はイントネーションの種類がすくないにも関わらず分化Pが多く、これは地域差が大きい単語が多いと言える。そこで分化P÷分化率という指標を導入し、計算すると表3のようになる。

表3: 分化P÷分化率

ジャンル	分化P÷分化率
食べ物	28.0
体の部位	26.9
動物	27.7
名字	16.1

表3によると上三つの数値が似通っていることがわかる。食べ物や動物は地域性が高く、名字は全国共通のものであることが理由として挙げられる。体の部位については今後の展望としたい。参考文献によると関西では短い単語ははじめにアクセントが来て長いものは後に来る、関東では中盤以降に来やすい傾向があり、とあるが今回の検証でもそれが見られただけでなく、東海でも関東のような傾向があることも観察できた。

## 5. おわりに

今回は地域によってイントネーションが変わりやすい単語の類を調査するためにグーグルフォームでアンケートをとり、関東、東海、関西を比較して考察を行った。その結果、体の部位と動物が分化の傾向が高く、分化が強い単語の割合については、名字以外で同じような結果が得られた。また、東海地方は関東に近いイントネーションを持つことがわかった。

参考文献: 木部暢子, 日本語方言の多様性—アクセントの地域差—, 東京外国語大学国際日本学研究報告, 2019, 巻5, p1-9

DOI: <https://doi.org/10.15026/92928>